

基本目標3 がん患者やその家族への支援を推進する

(1) がん患者やその家族の不安軽減に向けた取組の推進

がん患者やその家族は、がんと診断された時から、病気や治療等によって生じる身体的な悩み、病状や療養生活、将来に対する不安などの精神的な悩み、治療費や就労継続の難しさ、これらに伴う収入減少などの社会的・経済的な悩み等、様々な困難が生じます。このような状況にある患者や家族が、少しでも不安や悩みを軽減でき、その人らしく過ごすことができるように、相談支援や在宅療養、緩和ケアなどの情報提供を推進します。

①相談支援の充実

■目標

○がんについての相談窓口にアクセスできるよう、必要な情報提供を進めていきます。

■今後の取組

○がんの夜間相談窓口事業に関する利用の充実

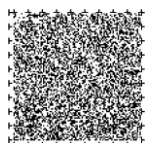
区では、がんの夜間相談窓口事業を「認定NPO法人マギーズ東京」へ委託し実施しています。看護師や心理士が、がん患者本人や家族、友人などの話を聞き、一緒に考えたり、心理的・社会的なサポートを見つけたりする手伝いをします。ホームページやSNS等を通じて積極的に周知を図り、事業の利用促進を図ります。

○がん相談支援センターの情報提供

がん相談支援センターは、全国の国指定のがん診療連携拠点病院などに設置されている「がんの相談窓口」です。区内では、N T T東日本関東病院、昭和医科大学病院において、がん相談支援センターが設置されています。患者さんやご家族だけでなく、誰でも無料で利用ができます。気軽に相談ができるよう、パンフレットやホームページ等で、がん相談支援センターの情報提供を行います。

○地域の医療機関や在宅医療に関する情報提供

がん患者が訪問診療を希望したいときには、地域のかかりつけ医や病院の担当医、がん相談支援センター等に相談することで、地域の訪問診療専門医や訪問看護ステーションが連携して在宅医療を提供していきます。また、介護サービスが必要な場合は地域のケアマネジャー等の相談窓口が分かるよう情報提供を行っていきます。



○がん治療における口腔ケアの重要性に関する普及啓発

がん治療に先立ち、適切な口腔機能管理を実施することで、合併症のリスクを低減させ、円滑ながん治療を行うことが可能となります。在宅療養患者で口腔ケアが必要な場合は、歯科訪問診療も実施しています。がん治療と口腔ケアの重要性について、ホームページを活用した情報発信や歯科医師会と協力し歯科事業イベントでも啓発していきます。

○AYA世代のがん患者支援への情報提供

AYA世代とは、Adolescent&Young Adult（思春期・若年成人）といい、15歳から39歳の患者さんがあてはまります。患者のライフステージに応じた相談事業等を、ホームページなどを活用し周知していきます。

■目標値

No	指標	現状値	目標値
1	がんの夜間相談窓口事業の相談件数	77件	増加
2	広報誌、ホームページ、SNSの発信回数	24回	増加

コラム

ピアサポートとは？

ピア(Peer)とは、同僚、仲間という意味です。ピアサポートは、同じような境遇や似たような体験を持つ人同士が助け合うことを意味します。

がんのピアサポートでは、がんの体験者（当事者、家族）が自らの経験やその経験から得た学びをもとに、同じ立場の人の悩みや不安な気持ちを理解し、共感しながら話を聞いたり、ともに考えたりしていきます。

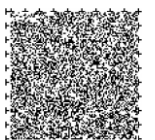


➤ 患者同士が支え合うことの良い面

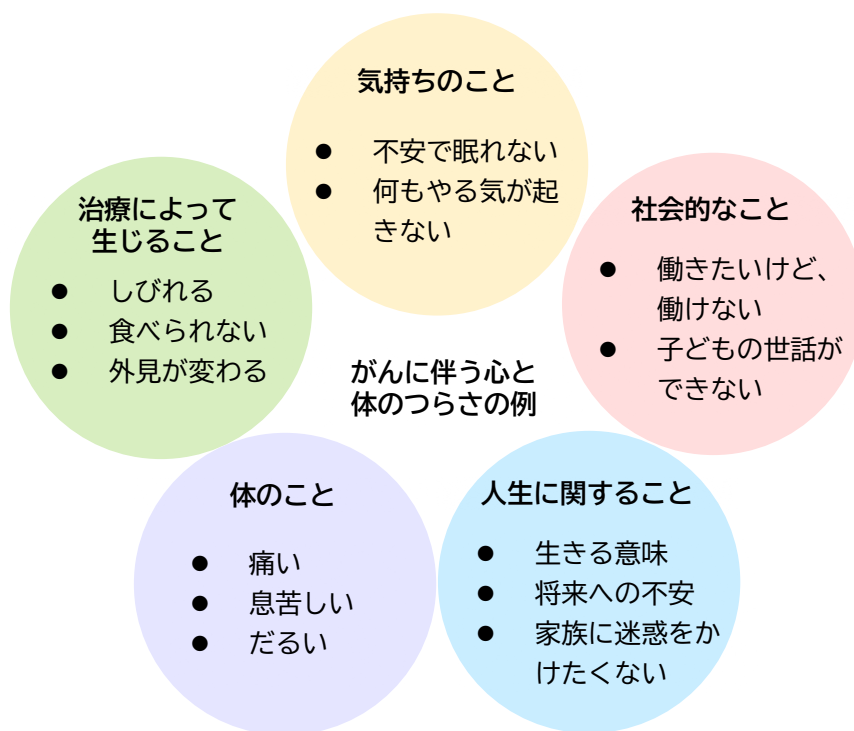
- 悩んでいるのは、自分一人ではないことに気づき、気持ちが楽になる
- 他の患者さんの経験談を聞くことで、悩みを解決するヒントを得たり、問題との付き合い方を学んだりできる
- 実際の患者体験に基づいた解決方法を伝え合える
- がんの体験を人に話すことにより、自分の気持ちが整理できる
- 自分の体験が他の患者さんや家族を支援する力になることを知り、失った自信を取り戻せる

など

出典：がん患者団体支援機構（がんのピアサポートとは）
国立がん研究センター「がん情報サービス」（患者同士の支え合いの場を利用しよう）

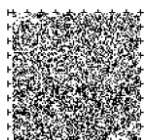


緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のクオリティ・オブ・ライフ（QOL：生活の質）を、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチとされています。



がんと診断されると落ち込むこともあります。また、診断を受けたときには、すでに痛みや苦しさなどの症状がある場合もあります。緩和ケアは、そのような落ち込みや症状に対して、がんと診断されたときから始まります。緩和ケアは、がんが進行してから始めるものではありません。がんの治療とともに、つらさを感じるときにはいつでも受けることができます。

出典：国立がん研究センター「がん情報サービス」(緩和ケア)



マギーズ東京は、がんを経験した人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人が、とまどい孤独な時、気軽に訪れて、安心して話せる、また自分の力を取り戻せるサポートもある、英国生まれのマギーズキャンサーケアリングセンター（マギーズセンター）の初めての日本版です。

➤ マギーズ東京ってどんなところ？

がんに影響を受ける
すべての人に

がんとともに生きる人、家族や友人などが、とまどい孤独な時に訪れて話をしたりゆっくり過ごしたりできます。がんの種類は問いません。どんなタイミングでもかまいません。

居心地のいい
第二の我が家

四季折々の植物が目を楽しませる小さな庭のある、家庭的な建物です。座り心地のいいソファやキッチンテーブルで、庭を眺めながらお茶を飲み、くつろいでみませんか。

がん詳しい
専門スタッフ

医療知識のある友人のような看護師や心理士がいます。そして、必要に応じて、あなたが自分の力を取り戻すための実用的・心理的・社会的サポートを探すお手伝いをします。

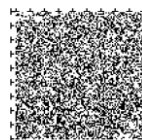


【お問い合わせ先】

認定 NPO 法人マギーズ東京

〒135-0061 東京都江東区豊洲 6-4-18 TEL : 03-3520-9913

© maggie's tokyo



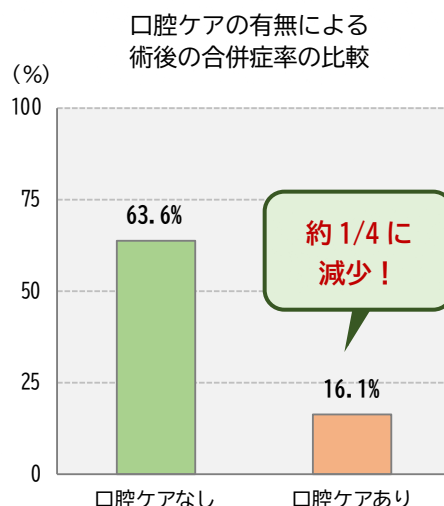
がん治療を行うと一時的に全身の抵抗力が弱まり、お口の中の細菌が原因となって、術後の合併症（肺炎などの感染症）やがん治療に伴うお口のトラブル（口内炎やお口の乾燥など）を引き起こすことがあります。お口の中の細菌を減らすことで、合併症やお口のトラブルを軽減し、円滑ながん治療を行うとともに全身状態の回復を早めることができます。がん治療を始める前から継続して歯科医院でお口のケアを行うことが大切です。在宅療養中で通院が困難な場合は、歯科医師による歯科訪問診療も実施していますので、歯科医院などに相談してみましょう。

➤ 手術後の合併症が減少する

右の図は、がん患者の方を対象に、手術前にお口のケアを行った人と行わなかった人とを比較した結果です。

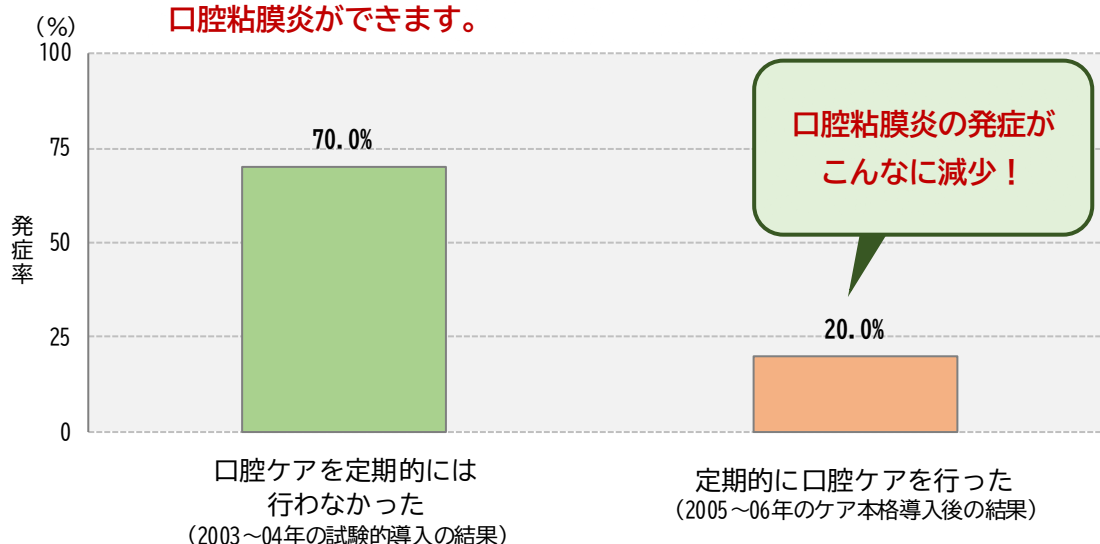
お口のケアを行った人は、術後合併症が約1/4に減少したことを示しています。

出典：日本歯科医師会作成「治療前からの口のお口のケアのすすめ」（大田洋二郎 歯界展望（2005））

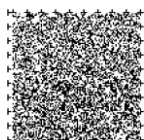


➤ 例えば、白血病の治療中に定期的に口腔ケアを行ったら？

白血病の治療では約80%の患者さんに
口腔粘膜炎ができます。



出典：東京都保健医療局「お口のケアががん治療を支えます！」



AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、主に思春期（15歳～）から30歳代までの世代を指しています。

日本では、毎年約2万人のAYA世代が、がんを発症すると推定されており、その多くは希少がんに分類されます。AYA世代でがんを発症する人は、1年間でがんを発症する人100人のうち2人程度です。年代別にみると、15～19歳が約900人、20歳代は約4,200人、30歳代は約16,300人です（2017年）。

AYA世代には、子どもから大人への移行期も含まれるため、小児で発症することが多いがんと成人で発症することが多いがんの両方の種類が存在します。

そのため、AYA世代に多いがんの種類は、年代によって異なります。



➤ AYA世代のがんの特徴

15～19歳

小児期と同じように、白血病、生殖細胞から発生する胚細胞腫瘍・性腺腫瘍、リンパ腫、脳腫瘍、骨腫瘍など

20～29歳

胚細胞腫瘍・性腺腫瘍、甲状腺がんなど

30～39歳

乳がん、子宮頸がん、大腸がん、胃がんなど

希少がんとは

「希少（きしょう）がん」とは、『人口10万人あたり6例未満の「まれ」な「がん」、数が少ないがゆえに診療・受療上の課題が他に比べて大きいがん種』の総称です。

200種類近い悪性腫瘍が希少がんに分類されます。

AYA世代は就学や就労、結婚や出産、育児といった、様々なライフイベントが起こる時期であり、がんになり患すると、その治療の過程において、通学や仕事の継続に支障をきたすことがあります。AYA世代のがん診療は、医学的な面だけでなく、AYA世代に特有のさまざまな問題点に配慮した精神的・社会的な面からのサポートが必要となります。

経済的サポート：高額療養費制度、傷病手当金、医療費控除、障害年金などの公的助成制度があります。

相談サポート：がん相談支援センター（91ページ参照）では、AYA世代のがん患者さんに対し、治療に携わる様々な職種で患者さんのサポートを行っています。

出典：国立がん研究センター「がん情報サービス」（AYA世代のがんについて）
国立がん研究センター 希少がんセンター（AYA世代と希少がん）



(2) 地域医療連携の充実

がん医療提供体制の中核として地域がん診療連携拠点病院（区内2か所）があり、病院の中でがん相談支援センターを設置しています。多くの患者は地域の身近な病院等でのがんの治療を受けており、国や都の指定するがん拠点病院と地域の医療機関との連携体制の構築を進めていく必要があります。

患者や家族が、適切な医療や支援により社会とのつながりを維持しながら、がんになっても安心して、その人らしく暮らすことができるよう、支援機関等との連携を図ります。

①がん患者支援機関等との連携

■目標

- がん患者等の相談支援を行っている医療機関等との連携を充実します。
- がんになっても、区民が希望する場所で安心して療養できる環境を整備していきます。（がん相談支援センター）
- 地域医療機関や訪問看護ステーションなどの専門機関と連携し、地域での支援のネットワークを構築していきます。

■今後の取組

○がんに関連する相談支援機関との連携

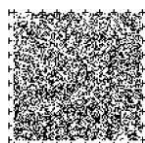
がん相談支援センターを中心に、がん患者等の相談支援を行っている医療機関等との連携を充実させ、がんになっても安心して、その人らしく暮らすことができるための取組を進めます。

○がん地域医療連携の推進

がん相談支援センターなどのがん対策支援活動を実施している関係機関と連絡会を開催します。支援活動の情報交換を行い、がんの相談支援情報を必要とする方へホームページやSNS等を活用して広く発信していきます。

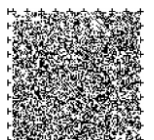
○相談体制の充実

かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師など身近に相談ができる窓口の紹介やがん相談支援センターで行っている相談会等の情報を区報やホームページで周知していきます。



■目標値

No	指標	現状値	目標値
1	がん相談支援センター等の支援者連絡会への参加機 関数	2	6



(3) がんと就労に関する相談、支援の充実

がん医療の進歩によって、治療を継続しながら社会生活を送ることが可能になってきています。一方で、がんになり患った人の中には、職場の理解・支援体制が乏しいために、離職に至ってしまう場合や誰にも相談できずに自ら離職の決断をする場合もみられます。就労可能な状態にも関わらず、職場復帰、就労の継続が困難になってしまわないよう、相談機関の情報提供を図るとともに、職域分野との連携を行います。

①情報提供の充実

■目標

○がんと仕事の両立に関する相談機関の情報提供を推進します。

■今後の取組

○がん相談支援センターの相談事業等の情報提供

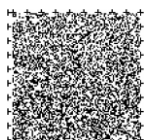
がん相談支援センターで実施するがんと仕事の両立に関する相談事業のお知らせをホームページに掲載し、また広報やSNS等でがん相談支援センターの活動を紹介するなど、幅広い情報発信に取り組みます。

○仕事との両立支援に関する情報提供

ハローワーク、東京産業保健総合支援センター、各関係団体等が相談窓口を設け、がんの治療と仕事の両立支援をしていることを、ホームページ、広報、パンフレットの作成、イベントを活用して周知するなど、積極的な情報発信を行っていきます。

■目標値

No	指標	現状値	目標値
1	仕事との両立支援に関するパンフレット配布先数	26	40



②職域分野との連携

■目標

○職域分野にがんと仕事の両立に関する相談機関の情報提供を推進します。

■今後の取組

○仕事との両立支援に関する情報提供

がんと仕事の両立支援の必要性や重要性を周知し、両立支援の流れや、相談機関の活用とそのリストをまとめたパンフレットの作成や、ホームページに記事を掲載するなど、職域分野も対象にした情報を発信します。

■目標値

No	指標	現状値	目標値
1	職域分野への情報発信の実施回数	2回	4回

③アピアランスケア事業の実施

■目標

○外見の変化に起因するがん患者の心理的および経済的な負担を軽減し、就労や社会生活を支援します。

■今後の取組

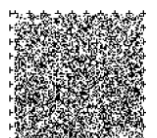
○ウィッグ（かつら）や胸部補正具の購入等費用の助成

がんの治療中の方などを対象に、ウィッグ（かつら）や胸部補正具等を購入またはレンタルした経費の一部について、助成を行います。

また、アピアランスケアについて、ホームページや医療機関、がん相談支援センター等と連携し事業の普及啓発を行っていきます。

■目標値

No	指標	現状値	目標値
1	購入等費用助成件数	149 件	480 件



アピアランスケアとは、「がんやがん治療によって外見が変化しても、その人らしく社会生活を送れるよう、患者さんを支えるケア」のことです。

がんの治療によっておこる外見の変化には、薬物療法や放射線治療による脱毛や皮膚の変化、手術（外科治療）によってできる創（きず）などがあります。外見が変化しても、患者さんが自分にあった方法で対処ができ、安心して今まで通りの生活を送ることが大切です。

➤ アピアランスケアの基本

- 自分に現れる外見の変化について、正しい情報を得るように心がけましょう
- 「がん患者用」「医療用」などと称した特別な製品を選ぶ必要はありません
- 外見が変化しても、必ず隠さなければいけないわけではありません

品川区においても、アピアランスケア事業として、ウィッグ（かつら）や胸部補正具の購入等費用の一部を助成する取組を行っています。

■助成対象品

・ウィッグ（かつら）

※ウィッグの装着に必要なネット、帽子付ウィッグ、帽子、医療用キャップ等を含む。

・胸部補正具

補正下着（ノンワイヤーソフトブラなど）、補正用シリコンパッド、人工ニップル、弾性着衣など

【お問い合わせ先】

品川区広町 2-1-36
品川区役所健康課保健衛生係
TEL 03-5742-6743

品川区のホームページ「アピアランスケア事業 がん患者ウィッグ・胸部補正具の購入等費用助成について」を掲載しています。
二次元コードよりご確認いただけます。



品川区
～がん患者の方の就労継続や社会参加を支援するために～

ウィッグや胸部補正具の購入等費用助成のご案内

品川区では、がん治療中の市民のみなさまの就労や社会生活を支援し、より良い健康生活となるよう、ウィッグ（かつら）や胸部補正具の購入等費用の一部を助成します。

- 1. 助成の対象となる方（次のすべてに該当する方）**
 - (1) 申請時に品川区に住民登録のある方
 - (2) がんと診断され、現在その治療を行っている方。または、過去にがんの治療に伴い脱毛を切除した方
 - (3) がんの治療に伴う脱毛や乳房の切除等により、ウィッグや胸部補正具を必要とする方
 - (4) 本事業において助成金の交付を受けたことがない方。また、他の法令等に基づく同様の助成などを受けたことがない方
- 2. 助成対象品**
 - (1) ウィッグ（かつら）
 - ※ウィッグの装着に必要なネット、帽子、帽子付ウィッグを含む。
 - ※ウィッグが年々に含まれない付属品（スチンド等）やケア用品（クリナー、リンス、ブラシ等）は含まない。
 - (2) 胸部補正具
 - 補正下着（ノンワイヤーソフトブラなど）、補正用シリコンパッド、人工ニップル、弾性着衣など
- 3. 助成金額**

購入やレンタル等にかかった実費（消費税を含む、上限3万円）
※申請は、対象者一人につき1回限り
（個数の上限なし。また、ウィッグと胸部補正具を併せて申請可）
※レンタル等とは、レンタルやリース、定額利用を指します。
- 4. 申請期間**

購入やレンタル等にかかる費用を支払った日（領収書等に記載の日）の日日から1年以内
※令和5年4月1日以後の購入・レンタル分が助成対象となります。
- 5. 助成に必要な書類**

申請書は品川区ホームページからダウンロードできます。

 - (1) 品川区がん患者補正具購入等費用助成金交付申請書兼請求書
 - (2) がんの治療を受けていることを証する書類の写し
（医療機関、がんセンター、診療方針書など）
※ウィッグの助成申請は脱毛の副作用がある治療を受けていること、胸部補正具の助成申請は乳房の切除をしたことが確認できる書類が必要です。
 - (3) 購入等の経費を支払った日付がわかる書類の原本（領収書等）
※宝くじは不可、領収書は必要です。
 - (4) 申請者の本人確認書類（個人番号カード、運転免許証、健康保険証等の写し）

出典：東京都保健医療局（東京都がんポータルサイト）
国立がん研究センター「がん情報サービス」（アピアランスケア）

